

令和4年度 学校自己評価システムシート (私立武陽学園 西武台高等学校・西武台新座中学校)

R4・4月第1回資料
R4・11月第2回資料

目指す学校像	将来の社会の変化に対応できるしなやかな知性と耐性のあるたくましい精神の育成。急激な社会変化の下においても、主体的に生涯にわたり、学び続ける方法を身につけさせる。
--------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校関係者評価は学校評価懇話会及び、第三者評価委員の選定状況

重点目標	<p>スクールミッション 「未来をデザイン—創造力と人間力」 制定</p> <ol style="list-style-type: none"> 校訓を尊重した学校運営を基礎に、心豊かな体験を通して耐性のある心を育成する。 学ぶ時間の確保及び学びの質を上げ、時代に即した学び方を身につけ進学実績の向上を目指す。 各コースの特徴を生かし、進路選択の幅を広げる指導の強化を推進する 「いじめのない学校」・「災害に強い学校」を堅持し、安全・安心な学校づくりの推進する。 学校行事・部活動の充実をはかり、心技体の調和のとれた、明るくたくましい健全な精神の育成を推進する。 中学校・高等学校一貫教育コースの特長を更に強化・発展させる。
------	--

2月に予定 第三者評価委員会 出席者 関係者 2名 学校評議委員会 出席者 関係者 5名
--

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標					年度評価 (令和4年11月までの経過)		実施日 未実施	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の中間報告	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・評価・要望等
1	学習環境と学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のもつ従来の学力伸長を重点とし、学びに対する姿勢を重点育成。 新たな学力、思考力・判断力・表現力の育成を目指す 探究・問題解決力の具体的な指導の展開。 中学校授業の指導充実を図る。 ICT教育の一層の活用推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価実施と評価に基づく改善。 英検等の資格試験の合格数の伸び。 学びコーチングの活用の推進 英語会話授業ベルリッツの充実。 リモート授業の実施。及び発信方法への改善 英検の資格認定を更に推進。 中学生の授業に対する姿勢の涵養を一層図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒進路第1希望実現の伸長度 「アクティブラーニング」の導入度数。 電子黒板・タブレット端末の利用度 ICT情報活用力とその指導発展と授業への効果度。 リモート授業の充実度 ベルリッツの生徒評価とその効果 	<ul style="list-style-type: none"> 進路関係は現在、主に指定校とAO入試の結果のみである。電子黒板の利用度は大きく進展した。 双方向のリモート授業もしっかり計画的に実施された。 普段の欠席者へのリモート要望へどこまで可能か検討中。 中学生には更に指導推進。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 前半はコロナ禍の影響も多少止みつづいた。 リモート授業はフルタイムで双方向の時間割通りの実施が出来た。 学校行事は積極的に実施し成長の機会を逃すことにならないように心した。生徒・学年も様々な工夫をしてくれた。 	<p>学校関係者評価</p> <p>実施日 未実施</p> <p>学校関係者からの意見・評価・要望等</p> <p>第三者評価委員の構成 評価員2名。 お二人とも大学教授の方々で実施</p> <p>実施日 平成5年3月24日</p> <p>総合評価結果 変化する社会状況や教育施策などに対応して、意欲的な教育課程の改革に取り組むなど、高い目標の下に次々と方策が講じられている点は高く評価したい。 今後はこのような取り組みが教職員・生徒の間に着実に浸透し、新たな成果が生まれることを期待する。</p> <p>総合評定 <u>4</u> (5段階総合評価)</p>
2	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の教育的効果を大切に実施と充実を図る。 今年もコロナ禍に負けず第一希望実現のため進路指導の在り方の再検討を図る。 大学入試の対応は指定校AO実力試験等幅広く広げその個々対応の指導推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間の確保とその伸び。 選抜Iコースへの学び方とその指導を具体的に推進。 就職活動の支援と充実。 難関校、上位校受験の特別対策指導の実施。 キャリア教育の実施具合。 アスリートクラスへの充実とその効果。 	<ul style="list-style-type: none"> 難関校・上位校、中堅大学等の進学実績の伸び率 家庭学習時間の伸び率 就職先の確保の状況 探究内容等の記入及び調査書への新たな評価基準の方向性確保。 アスリートクラスの効果 	<ul style="list-style-type: none"> 進学率の伸びはまだ未定。 就職率もこれからである。 学びコーチングを使って中学生の自宅学習時間は大きな成果を上げている 新たな評価方法は現在試行中。 アスリートへ2年は女子も入れた、HRが落ち着いた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 最終確定した進学結果は、昨年の結果に対し大幅な増となった三学年の指導が生きた。 結果は生徒意識の自信と向上心の育成につぎ事であった 最大は学習時間の確保と粘り強い指導であった。 アスリートの女子参入は良かった 	
3	生徒指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の育成。 学校行事・部活動等を充実し一層の意欲の向上を図る。 交通事故防止の徹底。 いじめ防止やハラスメントへ対応の推進。 防災意識と避難方法徹底。 SNS利用の注意と心得の修得。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の日常的励行の指導。 服装等の規定の遵守とその指導の在り方を職員で統一化。 自転車の安全な乗り方指導強化。 スマホ等の使用マナー改善、個人情報保護の拡散防止とその危険への啓蒙活動を進める。 相談室の活用充実。 防災訓練実施と地域との連携。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立状況 自転車による交通事故の減少数 特別活動・部活動の成果。 いじめ防止効果の有無。 相談室の活用とその効果。 インターネット、スマートフォン使用方法等のトラブルの減少。 水害防止からの避難方法指導。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で友人との学びの生活習慣がリズムとして出ていない面が不安。 特別活動の成果は例年通りで全国総体出場の結果も出した。 相談室の機能は相談員も学校に馴染み十分果たしてきた。 スマホに関しての課題は多い。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣を年間を通して築くには落ち着いた状況に無く苦労した。部活動等も個々にはハイ出場も果たし、実績を上げてくれた。 生徒指導では大きな課題も無かった。 SNS等の課題は依然として多い 	
4	研修体制の拡充	<ul style="list-style-type: none"> 教師として、高いモラル意識の育成研修の推進。 新規採用職員の研修の充実。 職員のハラスメント防止に対し一層の意識改善。 ICT活用授業と授業改善。 2022年新課程及び評価に対する教員研修の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 初任者、10年次等を含め、計画的な研修の実施。 年間を通じ授業公開を実施。 授業評価の効果的な活用を探る ハラスメント防止への資料啓蒙。 新教育課程の新科目と新基準検討。評価への統一基準作成。 	<ul style="list-style-type: none"> 初任者研修実施結果の指導力評価 きめ細かいICT活用。特に電子黒板の活用度及び能動的授業への推進率 生徒指導上や日常の生徒指導方法への在り方研修 	<ul style="list-style-type: none"> 本校も参加した初任者研修は私学協会としても英断を持って集合し実施された。 構内での研修も様々実施した。 電子黒板の使用とICT活用の研修会の内容も特に活用を中心に講師を依頼し実施した。着実に授業に使用されてきた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員の研修は計画通り実施された。 モラルの向上は様々な面に渡って啓蒙したが一層の向上が望まれ更に実施したい ハラスメントに関しても更に研修を深めたい。 ICT環境は情報室を一新した 	
5	開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 授業及び教育内容の公開。 ホームページへの充実。 停滞する国際理解教育の推進を模索する。 中学を中心に国際交流の推進。 新しい普通科STEAM設置、 企業連携、高大連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会及び、中学校・塾等の連携を強化し入学者の単願数の確保及び増加を推進 学校案内冊子よりホームページ発信の大幅な切り替えを図る。 オーストラリア校と交流事業の推進。 埼大との高大連携を企画。 	<ul style="list-style-type: none"> 第三者評価委員会の評価を含めた学校自己評価の公開 オープンキャンパスによる学校体験の充実と効果 ティンデール校とのリモート交流のや国際交流の進展度。 セントドミニクス校との交流。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価委員会はできるだけ実施したいと念願している。 夏のオープンキャンパスは相談会を中心として実施した。 中学を中心としてティンデールや他校との来日交流を実施。 企業連携は進んできた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍であったが学校での広報を積極的に実施した。 受験者への理解には広報活動、資料配付の形をホームページ中心に電子媒体に大幅に移行した。 	

学校評議員評価
実施日 12月15日
<p>学校評議委員構成 保護者会関係者 3名 新座市文化協会 1名 の構成で実施した。 授業評価及び教科からの回答をあらかじめ生徒には渡しておき会議となった。 評議委員評価 4.2 (5段階評価 評価委員の平均値)</p>